

栃木県入札適正化委員会（第１回）の概要について

- 1 開催日 令和８（２０２６）年６月２４日（水） 午後２時３０分開始
- 2 開催場所 栃木県庁舎北別館会議室２０１
- 3 出席委員
委員長 藤島 博英 足利大学工学部講師
委員 飯村 耕介 宇都宮大学准教授
委員 岡田 豊子 建築士
委員 島藺 佐紀 弁護士
(出席委員４名)
- 4 審議対象期間 令和７（２０２５）年１０月１日から令和８（２０２６）年３月３１日まで
- 5 対象案件
総数 ８４６件
抽出案件 ５件
(内訳：一般競争入札 ２件、指名競争入札 ２件、随意契約 １件)

6 議事等の概要

(1) 報告事項

- 1 入札及び契約手続きの運用状況及び指名停止の運用状況等について
事務局から、今回の審議対象期間中に発注した工事及び指名停止の適用状況について報告しました。
また、再苦情処理については、今回は対象案件がない旨報告しました。
- 2 審議案件の選定理由について
岡田委員から審議案件事案を選定した理由について報告がありました。

(2) 審議事項

- 1 「主要地方道宇都宮向田線板戸大橋鋼橋上部工建設工事その２」について
・工事箇所 宇都宮市板戸町
・県土整備部道路整備課発注（一般競争入札）
- 2 「栃木県立鹿沼華陵高等学校実習棟新築工事」について
・工事箇所 鹿沼市花岡町
・県土整備部建築営繕課発注（一般競争入札）
- 3 「落石防止工事 １２２号その２（土砂災害）」について
・工事箇所 ：一般国道１２２号 日光市唐風呂
・県土整備部日光土木事務所発注（指名競争入札）
- 4 「令和７年度（ゼロ国）復旧治山事業 谷止工工事」について
・工事箇所 日光市中宮祠字二荒山 小薙右沢上流
・環境森林部県西環境森林事務所発注（指名競争入札）
- 5 「栃木県行政情報ネットワーク拡張工事（出先庁舎無線２期）」について
・工事箇所 宇都宮市平出工業団地４８-４ 県央産業技術専門校ほか
・経営管理部行政改革ICT推進課発注（随意契約）

(3) 審議結果について

いずれの審議案件とも適正であると認められました。

主な質疑については次のとおりです。

【審議案件１について】

- Q 競争に参加できる者の条件を満たす業者はどれくらいありますか。
A ３９者です。
- Q 入札参加者が１者のみとなった要因について、どのように考えていますか。
A 価格以外の評価項目のうち、「地域内拠点の有無」の評価項目で得点できる業者が３者のみであったことが要因の一つと考えられます。
- Q 条件を変更することで競争性を確保するという考えはありませんか。
A 入札参加条件を満たす業者は３９者ありましたので、条件設定は適正であったと考えています。
- Q その１工事の入札参加条件と入札参加者はどのようになっていますか。

A 入札参加条件は本工事と同様です。入札参加者は2者です。

【審議案件2について】

Q 競争に参加できる者の条件を満たす業者はどれくらいありますか。

A 特定建設工事共同企業体の代表構成員となることができる業者は43者、その他構成員となることができる業者は100者以上です。

Q 入札参加者が1者のみとなった要因について、どのように考えていますか。

A 民間工事が多く、技術者の確保が困難であった可能性があるものと考えています。

Q 価格や工期、総合評価方式の採用が影響したとは考えられませんか。

A 市場価格と乖離が生じないよう最新の単価を採用していますので、価格の影響ではないと考えています。また、その他に影響したと考えられる要因は特にありません。

Q 入札参加形態を3者JVとした理由を教えてください。

A 栃木県建設工事共同企業体取扱要領に基づき、工事の規模等を勘案して3者JVとしました。

Q 落札率が高いことについてどのように考えていますか。

A 県の予定価格については基準に従って算出しており、入札参加者が高い精度で入札金額を算出した結果、予定価格に近い金額となったものと考えています。

【審議案件3について】

Q 落札率は97.84%であり、落札者以外の入札金額も予定価格の98~100%と高くなっていますが、この結果についてどのように考えていますか。

A 事前に指名業者全社から徴取した見積金額を基に予定価格を算出しており、各社の実行予算がその見積金額に近かったものと推察しています。

Q 分離分割工事の落札率はいかがですか。

A 98.87%です。

【審議案件4について】

Q 下部工事と上部工事に分割して発注し、2カ年施工としている理由を教えてください。

A 積雪地域であるため施工時期が限られています。また、資材搬入に使用する索道を冬期も架設したままとした場合、仮設費が増大してしまいます。このため、各工事を1年間で施工可能な工事量として発注することが適切と考え、下部工事と上部工事に分割して発注しました。

Q 落札率は98.21%であり、落札者以外の入札金額は予定価格とほぼ同程度となっていますが、この結果についてどのように考えていますか。

A 今回の落札者は、男体山における施工実績や現場条件に関する知見を有しており、他の入札参加者と比べて効率的な施工方法や施工体制を見込むことができたものと考えています。そのため、他の入札参加者よりも低い価格で入札することが可能であったものと推察しています。

Q 落札率が高いことについてどのように考えていますか。

A 当該現場は施工条件が厳しく、設計において必要な仮設費を計上していますが、落札者においても安全確保に必要な費用等を十分に見込んだものと考えています。その結果、入札価格が予定価格に近い水準となり、落札率が高くなったものと推察しています。

【審議案件5について】

Q 予定価格の算定方法はどのようになっていますか。

A 過去の類似工事や業者の参考見積書を基に職員が積算しています。その際には、物価資料掲載単価及び国の公共工事設計労務単価等を用いています。